

加瀬ちひろ（動物行動）・植竹勝治（動物管理）・山本誉士（時空間解析）
・小玉敏也（教職課程）・福井智紀（教職課程）

研究の背景

動物園での動物との「コンタクト」は、子どもたちに対する命の教育に加え、動物への関心の高まりや動物飼育に対する前向きな姿勢を促進する効果などがあることが知られており、多くの動物園でモルモットなどを対象に実施されています。一方で、「コンタクト」は動物にとってストレスである可能性も指摘されており、動物福祉に配慮した「コンタクト」方法の提案が求められています。そこで本プロジェクトでは、動物との「コンタクト」を実施している埼玉県こども動物自然公園と共同で、動物にとって負担が少なく、人間にとって教育効果の高い「コンタクト」方法を探ります。



「コンタクト」体験の様子

アプローチ

主にモルモットを対象に、「コンタクト」をした時としていない時で、行動にどのような変化があるかを調査します。対象個体に三軸加速度ロガーを装着して得たデータを解析したり肉眼での行動観察などによって評価します。得られた結果に基づき、「コンタクト」の方法や実施時間、1頭あたりの実施人数などを検討し、動物にとって負担の少ない方法を提案します。

また、「コンタクト」を体験した人がどのような教育効果を得られるかについてもアンケート調査などによって評価し、動物に負担がなく、教育効果の高い方法を探ります。



期待される結果

- ・動物園での「コンタクト」実施に関して、動物福祉に配慮しかつ、教育効果の高い方法を提案できる
- ・動物園が持つ役割について実践を通じて学べる
- ・基本的な行動解析能力が身につく
- ・基礎的なデータ解析力、作図やスライドで結果をアウトプットする力が身につく
- ・ディスカッション力、基本的なデータ解釈力が身につく



募集方法

募集人数：2～4名

埼玉県こども動物自然公園 (<https://www.parks.or.jp/sczoo/guide/000/000193.html>)へ伺い、実際の「コンタクト」を見学したり、体験したりしていただくことがあります。また、動物園の方とディスカッションすることもあります。学内での研究活動だけでなく、色々な立場の方と交流したい！という方はぜひ一緒にプロジェクトに取り組みましょう！